

技術情報

滋賀県農業技術振興センター農業革新支援部

発信日：平成27年 7月15日	部門名：気象災害	発信番号：003
標題：台風11号の接近に備えての対策について		記述者：各担当

太平洋の南に発生している強い台風11号は14日、日本の南海上を北上した。気象庁によると、16日夜には強い勢力を保ったまま西日本に接近し、17日に向け上陸後、日本海側に向け縦断する恐れがあります。近畿地方には、7月16～17日にかけて接近・上陸のおそれがあることから、大雨と強風が吹き荒れる可能性があります。

農作物等の被害を最小限に抑えるため、万全の対策を講じるよう指導してください。

なお、対策の詳細については、「主要農作物気象災害対策の手引き」、「農作物病害虫雑草防除基準」を参照してください。

また、ほ場や施設の点検は、事故防止の観点から台風情報を十分確認し、大雨や強風が治まってから行うよう指導してください。

【水稲】

1. 台風通過前の対策

- ①事前に排水路の詰まり等の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備える。
- ②穂ばらみ期から出穂期にかけてが最も風害を受けやすいため、やや深めに水を張っておく。特に、出穂が始まっている極早生品種、「みずかがみ」等早生品種は台風通過時の深水管理を徹底する。

2. 台風通過後の対策

- ①冠水した場合、葉先を水面に出すよう速やかな排水に努める。
- ②冠水の著しいほ場においては、白葉枯病等の発生が懸念されることから、排水後、病害の発生動向に十分注意し、発生を認めたら殺菌剤を散布する。また、冠水や浸水の被害を受けた稲体は水分調整、肥料吸収等の機能が低下していることから、田面の過度な乾燥に注意する。

【大豆】

1. 台風通過前の対策

事前に排水路の詰まり等の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備える。

2. 台風通過後の対策

- ①冠水又は浸水の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。
- ②冠水の著しいほ場においては、茎疫病等の発生が懸念されることから、排水後、病害の発生動向に十分注意し、発生を認めたら殺菌剤を散布する。
- ③滞水により発芽不良を起こした場合は、排水後、ほ場が乾きしだい、早めに播き直しを行う。

【野菜】

I 施設野菜（雨よけを含む）

1. 台風通過前の対策

- ①パイプハウスが耐えられる風の強さは、風速25m程度（アーチパイプ25mmφ、50cm

ピッチ、間口 6.0m) で、補強パイプを入れた通称コンクラハウスでも風速 32 m 程度と考えられる。内作に影響がなければ、フィルムは除去しておく。内作がある場合はハウスを密閉し、隙間や破れ、緩みを点検し補修する（ハウスバンドの締め直し、バンド固定用のパイプや番線、らせん杭の点検、フィルムの補修、ドアの補強等）。

- ②換気扇があるハウスでは、出入口を密閉して換気扇を稼働させ施設内を負圧にする。
- ③風圧を弱める対策として防風ネットをハウスの軒高と同じか高いくらいに設置する。
- ④パイプ埋め込み部分が水で緩くならないよう、ハウス周囲の排水溝を点検して手直しする。
- ⑤強風により、資材・木片・小石等が飛来して被覆資材が破損しないように、施設周辺を清掃しておく。
- ⑥生育中の野菜がない簡易パイプハウスなどでは、被覆資材を巻き上げて軒の部分にくくり付ける。
- ⑦鉄道沿線や幹線道路沿いのハウスは、フィルム等が飛散し、2 次的な大事故の原因にならないように十分に注意する。

2. 台風通過後の対策

- ①速やかにほ場の排水を行い、停滞水のないようにする。
- ②吹き返しの風の強さや方向に注意しながら、ハウスサイド・天窓の解放を行って、施設内温度をできるだけ早く降下させる。
- ③茎葉に付着した泥などは、速やかに水で洗い流し、殺菌剤を散布する。また、茎葉の被害を受けた場合は、細菌病などの病害が発生しやすくなるため被害株や被害葉を除去し、防除を徹底する。
- ④野菜や苗等のしおれが甚だしい場合は、寒冷紗やべたがけ資材等を被覆して、植物体の温度の低下と蒸散の抑制を図る。
- ⑤草勢を回復するため、台風通過後に液肥の葉面散布・追肥を行う。また、土壌表面が固まっている場合は軽く中耕する。

II 露地野菜

1. 台風通過前の対策

- ①排水溝をさらえるなど排水対策に努める。また、排水口は必ず作っておく。
- ②収穫中の野菜は、早めの収穫を行う。
- ③播きつけ直後のものは、種子の露出を防ぐために寒冷紗等で被覆する。
- ④植付け直後のものは、台風前に土寄せや土入れ、寒冷紗等で被覆を行い、株の揺れを防ぐ。
- ⑤風速が強くなる場合は、事前に誘引ネットやテープを切って、畝の上におろし、上から防風ネットや寒冷紗等で押さえ、株が動かないように固定し、台風の通過後に復元する。
- ⑥ほ場周辺に防風ネットなどを設置する。

2. 台風通過後の対策

- ①速やかにほ場の排水を行い、停滞水のないようにする。
- ②茎葉に付着した泥などは、速やかに水で洗い流し、殺菌剤を散布する。また、茎葉の被害を受けた場合は、細菌病などの病害が発生しやすくなるため被害株や被害葉を除去し、防除を徹底する。
- ③支柱を立て直し、誘引する。
- ④株元が露出したり土壌が固まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せを行い、

畝全面を軽く中耕して通気性をよくする。

⑤豪雨により肥料の流亡が考えられる場合は、速効性の窒素やカリ肥料を追肥する。

⑥草勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や葉面散布が効果的である。

【果樹】

1. 台風通過前の対策

①降雨が速やかに排水されるように、排水溝をさらえるなど排水対策を講じる。

②早生ももやブルーベリーなど収穫期にある果実は、強風程度と果実の成熟程度に応じて、やや早めの収穫を行う。

③幼木や品種更新のために高接ぎしたものは、支柱を立て枝折れが起こらないよう幹や主枝をしっかりと誘引し固定する。

④ナシ、ブドウ、キウイフルーツなどの棚栽培する果樹は、強風が棚面をあおり被害を大きくするので、太い棚線の交差部分に重さ2kg程度のおもりをぶら下げ上下動を少なくする。棚線や支柱の強度、欠損箇所を確認し、支柱を増やしたり、棚線を張り直して緩みをなくするなど、棚自体を補強する。防風、防虫ネットを設置している園ではネットの結び目等を確認する。

⑤ハウス栽培では、控え線やハウスバンドを締め直し、ビニールの張りを点検する。

また、ハウスの周辺から物が飛んできて破損することがないように見回り予防する。

強風時はビニールを張って完全密閉し、換気扇がある場合は稼働させハウス内を負圧にし、ビニールのばたつきを少なくする。

⑥ハウスの強度を上回る強風が予想される場合は、天窓やサイドの換気部分を全開にして、ハウスの上部と妻部分のビニールを外すか破り、ハウス本体が倒壊破損しないようにする。

2. 台風通過後の対策

①降水量が多く、ほ場に長期間滞水する場合は、根の活力低下を防ぐため、側溝のゴミ、泥の除去、除草を行うなどして水の流れを良くしたり、浅い溝を掘って表面水を速やかに園外に排水する。

②落葉や枝葉の損傷が激しい場合は、樹の被害程度に応じた着果量に摘果する。

③雨による病気の蔓延や風による樹体の傷口から病気の感染の恐れがあるので、農薬安全使用基準に従って殺菌剤を散布する。

④倒木した場合は速やかに起こし、支柱などにくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。枝折れした場合は平滑に切り戻し、癒合剤を塗布する。

【花き】

1. 台風通過前の対策

①施設に対する対策は野菜に準ずる。

②畝の両端の親支柱や中間支柱をしっかりと立て直し、中間にクイを入れ補強する。

③ネットは頂点から3分の1程度下がったところで支持する。

④収穫直前のものは、早めに収穫する。

2. 台風通過後の対策

①速やかに排水を行う。

②倒伏した場合は、茎が曲がる前に修復し、土などの汚れを洗い落とす。

③病害が発生しやすくなるので、病害防除を徹底する。

3. 小菊の対策

①台風が来る前に固めの切り前で収穫し、常温で水揚げ、保管後に出荷する。

「調整」→「水揚げ」・「常温で良いができるだけ涼しい場所での保管」→「箱詰め前の再度切り戻し」を必ず行う。

②台風が去るのを待って午前には収穫し、通常出荷する。

風雨による花卉や葉の傷みは、高温、ムレにより症状は重くなるので、収穫後の水揚げや調整作業時は、通常よりばらけさせて取り扱う。収穫時に葉や花が濡れているときは扇風機などで乾かし、ムレを防ぐ。

【茶】

1. 台風通過後の対策

①幼木園で、株元の土が流亡したり、茶樹が横倒しになっている場合は、速やかに土寄せを行い踏み固める。

②天候が回復した後、防霜ファン、茶工場等の施設や資材の点検および修復を行う。

茶園見回りの際は、危険な場所には近づかず、足下等、安全に十分注意し、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行う。

【畜産】

1. 台風通過前の対策

①畜舎等の施設に雨、風が吹き込まないように、入り口や窓をしっかりと閉めておく。

弱い部分は強風で破損しないよう補強する。特に、ハウス等の簡易な施設は、支柱やビニール押さえのバンドを増やし、カーフハッチ、防暑用の資材などは飛ばされないよう対応する。また、吹き込んだ雨で飼料等が濡れないよう畜舎内を整理しておく。

②飛来物による施設等の損傷を防ぐため畜舎周辺の整理に努める。浸水のおそれがある場合は、堆肥舎に水が流れ込んだり、ふん尿が流れ出さないよう土のうを置く。

③飼料作物の栽培ほ場は、排水を徹底しておく。

2. 台風通過後の対策

①畜舎に雨が吹き込んだ場合は、風通しを良くし、乾燥に努める。特に湿った敷き料は速やかに交換する。

②飼料作物栽培ほ場は、滞水しないよう速やかに排水を行う。滞水により発芽不良を起こした場合は、排水後に早めに播き直しを行う。

【獣害】

1. 台風通過前の対策

①獣害柵は日ごろから破損、倒壊などの早期発見のための見回り活動が大切である。台風の接近が見込まれるときは事前に獣害柵の周囲を巡回し、飛ばされて施設を損壊させるものがないか、流失した土砂などが柵でせき止められていないかなどを確認し施設とその付近の状況を確認しておく。

2. 台風通過後の対策

①獣害柵の巡回点検を実施し、樹木の倒木による柵の破損・サルの渡り場の発生、土砂などの流失物などによる柵の損壊などを確認し、破損箇所等の修復作業を行う。電気柵では、電圧の低下がないかチェックを行い、電圧低下が確認されれば、再び漏電箇所の巡回点検を実施し、速やかに修復する。破損箇所を長時間放置することは、野生獣が農地に侵入するきっかけを与えることになるので速やかに行う。